

気仙医師会学術講演会

気仙地区糖尿病治療講演会

◎日時：2018年12月6日（木）19:00～21:00

◎会場：大船渡プラザホテル1階「鳳凰の間」

座長 岩手県立大船渡病院 副院長・内科長 九尋良徳彦 先生

【特別講演】

「最近のGLP-1受容体作動薬の話題」

演者 かねこ内科クリニック 院長 金子能人 先生

2型糖尿病の患者数は、2013年末に950万人と発表されており増加の一途をたどっている。食生活の欧米化や移動手段の変化に伴う活動量の低下によって様々な代謝異常を惹起し肥満などがインスリン抵抗性を強め、代償性インスリン分泌の破綻などで、インスリン不足が生じて糖尿病を発症する。特に岩手県では肥満の増加が大きな問題となっている。糖尿病患者の平均寿命は非糖尿病患者と比べて約10年短いといわれているが、最近早期治療や包括的治療が死亡リスクを低下させることが長期フォローアップ研究によって明らかになった。また、新薬による死亡リスク低下効果も報告されており、糖尿病を発症しても早期からしっかり治療すれば健康で長生きできる、ということをお患者にははっきりと言えらる時代になっており糖尿病治療は大きな進歩を遂げている。

また、今日ではHbA1cの値だけではなくHbA1cの質についても関心が寄せられ、患者一人ひとりを見極めた治療が求められており糖尿病診療も大きな変革期を迎えている。

2012年以降、DPP-IV阻害薬、GLP-1受容体作動薬、SGLT2阻害薬が次々に上市され薬物治療の選択肢は大いに広がり、各製剤において大規模臨床試験の心血管系アウトカムにおける長期的な検討とエビデンスが出てきており、糖尿病治療において血糖コントロール維持期間の延伸と生命予後に寄与する治療法が明らかになってきた。

今後GLP-1製剤の活躍の場としては、比較的早い段階での導入が理想と考える。可能であれば3剤目以内での導入が望ましいが、GLP-1は高価な治療薬であるため、一定の効果がないと患者の理解不足や経済的問題等で治療を中断する患者も少なくはない。もちろん、レスポnder、ノンレスポnderがいるが、加えて効果がある場合、私は消化器症状の延長線上にあるのではないかと考えている。消化器症状にセンシティブな患者には十分説明をした上で処方継続している。また、インスリンを増量した場合に低血糖を起こしやすい、あるいは体重増加を起こしやすい患者(インスリン分泌能がある)に新規での処方、あるいは併用を検討するのも手段の1つと考えられる。心血管系イベントや腎保護作用が報告され新たな展開を見せているため、大血管イベントのリスクの高い患者にも今後の有用性に期待が高まっており、現在の糖尿病患者の生命予後のさらなる改善にむけてこれらの医学研究の成果をいかに多くの患者へ還元していくのか期待したい。